

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 5 月 19 日現在

機関番号：32633

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2019

課題番号：15K20818

研究課題名(和文) 未熟児・低出生体重児の家族支援のための保健師教育プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of Public Health Nurse Education Program to Support Families Having Infants with Low Birth Weight

研究代表者

永井 智子(NAGAI, Tomoko)

聖路加国際大学・大学院看護学研究科・助教

研究者番号：00735582

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、保健師を対象とした低出生体重児を育てる家族支援のための教育プログラム開発、試行、評価を実施し、保健師の実践力を高めることを目的に実施した。基礎調査として、文献検討、インタビュー調査(低出生体重児を育てる母親、保健師)を実施し、新任期の保健師を対象とした教育プログラム(講義、事例検討、情報交換)を開発した。評価はプログラム終了直後に、無記名自記式の質問紙調査により実施した。教育プログラムは、120分の短い時間であったが、全体を通して満足度は高く、低出生体重児を育てる家族に特徴的な課題を学び、支援の大切さを実感する機会となったと考える。

研究成果の学術的意義や社会的意義

低出生体重児の家族支援において、保健師は、家族との信頼関係を築くこと、個別性に応じた関わり、必要な社会資源づくり等の専門的な知識と高い技術が求められる。本研究の基礎調査より、低出生体重児支援は、ケースマネジメント能力と関係し、特に経験の浅い保健師にとって難しいものとなることが推測された。よって、教育プログラムは、新任期の保健師を対象とし、基礎知識、母親の思いや経験、社会資源開発の実例等を取り入れた内容とした。本教育プログラムは、低出生体重児を育てる家族に特徴的な課題や具体的な支援を学ぶ内容となっており、新任期の保健師の低出生体重児を育てる家族支援の質の保証と支援技術の向上に寄与すると考える。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to develop and conduct a trial of an educational program for public health nurses in supporting families to raise infants with low birth weight and improve these nurses' practical ability.

In a basic survey, we conducted literature reviews and interviews (mothers raising infants with low birth weight, public health nurses) and developed educational programs (lectures, case studies, free discussion) for novice public health nurses. Immediately after the completion of the program, the evaluation was conducted with a self-administered questionnaire survey. Although the educational program had a short duration of 120 minutes, the degree of satisfaction was high overall, and it was an opportunity to learn the characteristic issues of families raising infants with low birth weight and realize the importance of support.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：保健師 低出生体重児 家族 支援 教育プログラム

1. 研究開始当初の背景

近年、出生数に占める低出生体重児の割合が増加し¹⁾、出生直後に医療的なケアを必要とした児も健やかに育つ一方で、発達や母子の愛着関係における課題がある。低出生体重児を出産した母親は、当初は思い描いていた出産と異なる状況に直面して衝撃を受けるが、次第に子どもに接することでわが子を受け入れ、母子の愛着を育てていくとされる²⁾。しかし、退院時は一時的に不安が高まり、特に退院後間もない時期は、入院中よりも育児技術の困難が課題とされている³⁾。また、母親の認識は、周囲のサポートに大きく影響を受けるとされ⁴⁾、母親が生活をしている地域で安心して育児を行うことができる支援体制をつくるのが重要である。行政に所属する保健師は、保健医療の観点から地域の中で新たなネットワークを作り出すことのできる職種である。低出生体重児を育てる家族が、退院後の生活の中で、その家族らしく育児をしていくために、保健師が果たす役割は大きい。しかし、保健師の育児支援に不満を感じている母親が25%にのぼるという調査結果⁵⁾や、保健師の指導がマニュアル的で役に立たなかったという母親の語りも報告されている⁶⁾。保健師の低出生体重児を育てる家族への支援能力を高めていくことは重要な課題であり、家族との信頼関係を築くこと、個別性に応じた関わり、必要な社会資源づくり等の複合的な能力が求められる。

2. 研究の目的

本研究では、保健師が低出生体重児を育てる家族を支援の実践力の向上のために、保健師に特化した教育プログラムを開発し、試行・評価を行う。このことは、保健師の低出生体重児を育てる家族への知識と技術の向上、継続的なよりよい支援の実現に寄与すると考える。

3. 研究の方法

研究目的を達成するために、基礎調査、教育プログラムの開発、試行、評価を段階的に実施した。

1) 基礎調査

(1) 文献検討

文献検討では、低出生体重児を育てる母親の状況、低出生体重児の医療機関の支援と保健師の支援、保健師を対象とした教育プログラム開発に関する文献を収集した。

教育プログラムを開発するために、母親の保健師に対するニーズや保健師の意識や技術を包括的に捉えていく必要性を認識し、インタビュー調査を計画した。

(2) インタビュー調査

低出生体重児を育てる母親

出生体重が2500g未満かつNICU・GCUに入院し、出生直後から医療的な処置を受けた1歳から就学前の児を育てる母親7名に個別インタビューを実施した。インタビュー内容は、妊娠・出産・育児の中で感じた思い、印象に残っていること、必要だと感じたこと、支援者に望むこと等である。

保健師

低出生体重児の家族支援の経験がある保健師4名にグループインタビューを実施した。インタビュー内容は、保健師が現在抱えている課題や必要としている知識や技術である。

2) 教育プログラムの開発、実施、評価

基礎調査の分析結果を元に、低出生体重児を育てる家族を支援するための保健師の教育プログラム(講義、事例検討、情報交換)を開発した。対象は新任期の保健師とした。教育プログラムは、計3回(2018年12月~2019年11月)、計13名の保健師を対象に実施した。評価はプログラム終了直後に、無記名自記式の質問紙調査により実施した。5段階のリッカートスケール(1.全くそう思わない~5.大変そう思う等)と意見および感想(自由記載)で回答を求めた。

4. 研究成果

1) 基礎調査

(1) 文献検討

保健師の支援として、家庭訪問や親子の交流会等が行われているが、支援の効果は報告により差があり統一した見解に至っていないことが示された。保健師を対象とした教育プログラムに関する文献では、低出生体重児に関するものはほとんどなく、業務を抜けて研修に参加することの難しさ等の報告もあった。

(2) インタビュー調査

半構造的インタビューを行い、データは質的記述的に分析した。

低出生体重児を育てる母親

低出生体重児の母親が妊娠・出産・育児を通して支援に望む思いは、 かけがえのない子とい

う思いを共有したい、自分の子どもに合った情報がほしい、医療者のような知識がなくても、おいてきばりにしないでほしい、もう一步踏みこんでかかわってほしい、同じ経験をした保護者から話を聞いて、子どもの成長のイメージをもちたい、同時に変化する家庭生活を支えてほしい、小さく生まれたという意識と隣り合わせだからこそ今を大切にしたい、という7つのカテゴリが示された。保健師に関しては、継続して相談をしている母親はならず、環境を見に來られるという緊張感や保健師の役割は分からないという内容も語られた。

保健師

保健師が抱えている支援の難しさとして、子どもによって経過が異なる難しさ、就学時等の母親の心の揺れ、医療機関の指導と差がでないような慎重な介入、母親の子どもへの過剰な期待、母親の思いと保健師の等の個別事例に応じたケースマネジメントの難しさがあげられた。また、個別性が高く、新任期の保健師にとって難しいことが示された。

2) 教育プログラムの開発、実施、評価

教育プログラムの開発

教育プログラムは、講義(基礎知識、保健師の支援の意図、母親の経験や思い、社会資源の開発)事例検討、情報交換の構成とし、知識を実践につなげ事例を掘り下げていく内容とした。また、母親のニーズを地域全体の課題として取り組んだ事例として、しずおかリトルベビーハンドブック⁷⁾の内容を取り入れた。教育プログラムの時間は、120分とし、1回完結型とした。

教育プログラムの実施

教育プログラムは、計3回(2018年12月~2019年11月)実施し、計13名の保健師が参加した。

教育プログラムの評価

回答者の属性は、経験年数は平均1年8か月(範囲6か月~2年8か月)であり、看護師経験ありのものは3名であった。所属自治体は、指定都市9名、特別区3名、市町村1名であった。

参加者のうち10名(77%)がこの1年の間に低出生体重児の支援を経験していたが、低出生体重児の研修を受けたことがあるものは、基礎教育での講義も含めて4名(31%)であった。

リッカートスケールの平均値は、「基礎的な知識を学ぶことができた」4.8、「家族の思いにそった支援について考えることができた」4.8、「家族支援のために保健師としてできることをさらに考えたい」5.0、「低出生体重児に関してさらに学びたい」4.8「教育プログラムの内容を実践に活かしていけると思う」4.6であった。

進行のスムーズさ、時間、難易度、満足度、時間、参加者同士の交流は、4.5以上であり、最も数値の低かった時間に関しては「やや短かった」という回答が複数あった。

講義、事例検討、情報交換毎の分析においても、すべての項目で、4.2以上であった。

自由記載の内容では「低出生体重児の母親の実際の思いや経験が印象に残った」という意見が多く得られた。教育プログラムは、120分の1回完結型であったが、低出生体重児を育てる家族に特徴的な課題を学び、支援の大切さを実感する機会となったと考える。特に、基礎調査で行った低出生体重児の母親の経験や思い、保健師に対する印象を伝えたことは、参加者自身の支援の振り返りや保健師としての姿勢を考えるきっかけとなっていた。また、特定のテーマで新任期の保健師が交流することは、同じ立場での思いを共有する機会となり、今後の活動への動機づけとなったと考える。体系的に活用できるように、新任期の保健師の研修等に取り入れていくことが重要である。

<自由記載の抜粋> 意味を保持したまま、表現の一部を変更

- ・低出生体重児は数として少ないため“勉強しなければ”という思いがやや薄かったが、母親の思いや支援者に対する気持ちを学び、数として少ないからこそ、より丁寧な関わりが求められると感じた。
- ・適切な養育態度である保護者に関しては、支援が手薄になりがちであったが、地域に根差す保健師としてできることをしていきたいと感じた。
- ・もっと知識や技術を身につけて、母親が安心してもらえるような保健師になりたいという思いが強くなった。
- ・大丈夫そうに見える母子でも多くの思いを抱えていることをあらためて実感し、自分ができることをもっとしていきたいと思った。
- ・母親の語りで「評価的な見方をしないでほしい」ということが印象に残った。育児ができるか虐待のリスクがないかという視点で考えることが多いと思うので、気を付けていきたい。
- ・情報交換では、法令や新しい政策について知らないことばかりだったので勉強したい。
- ・早い段階でフォロー終了としてしまうことが多かったので、細く長く一步踏み込んだ支援ができるとよいと思った。何かあった時にふと電話をしたくなるような保健師になりたいと思った。
- ・新任期という同じ立場で、他の自治体の保健師と話をできるのがよかった。

- ・いろいろな自治体・職場の人と意見共有できて、とてもよかった。日々感じている困難感や不安感について話し合えた。

引用文献

- 1)公益財団法人母子衛生研究会．母子保健の主なる統計 令和元年度．2020．
- 2)Lindberg B&Ohrling K (2007) .Experiences of having a prematurely born infant from the perspective of mothers in northern Sweden. *Int J Circumpolar Health* , 67(5) ,
- 3) 北村 亜希子(2011)．低出生体重児の母親がもつ育児不安の要因の検討 子どもが NICU 入院中と退院後の比較．*母性衛生*,51(4) ,694-703．
- 4)石井歩, 石川紗也, 品川陽子 (2007)．極低出生体重児をもつ母親の自己効力感に影響を与える要因．*日本看護学会論文集 小児看護* 38 , 194-196．
- 5)野村真二, 林谷道子, 中田裕生 他 (2004)．地域の保健師との連携による NICU 退院児の育児支援 アンケート結果と今後の課題．*広島医学* , 57(6) , 556-560 ．
- 6)深谷久子(2010)．早産児をもつ親の育児に対する反応に関する記述研究．*椋山女学園大学看護学研究*, (2) ,67-77．
- 7) 静岡県公式ホームページ．しずおかリトルベビーハンドブック．
https://www.pref.shizuoka.jp/kousei/ko-140/shizuoka_lbh.html [2020-5-15]

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 永井智子 麻原きよみ	4. 巻 36
2. 論文標題 低出生体重児を育てる母親に対する保健師の支援の意図に関する記述的研究	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本看護科学会誌	6. 最初と最後の頁 220-228
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） http://doi.org/10.5630/jans.36.220	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 永井智子
2. 発表標題 低出生体重児を育てる母親が妊娠・出産・育児を通して支援に望む思い
3. 学会等名 第28回日本新生児看護学会学術集会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----